

平成 23 年度
環境保全レポート
(CES 報告書)



平成 24 年 9 月 25 日作成
株式会社 ソフトウェアプロ

目 次

I. 事業の概要	1
II. 環境方針	2
III. 環境保全の対象範囲と対象期間	2
IV. 環境保全組織	3
V. 環境保全の取扱項目と目標	3
VI. 環境保全活動の実績	4
VII. 環境保全活動の内容	5
VIII. 環境保全の取組の評価と次年度の取組目標	6
IX. 代表者による総合評価と見直し	6

I. 事業の概要


- 【会社名】 株式会社ソフトウェアプロ
- 【代表者】 代表取締役 波多江武文
- 【所在地】 福岡県 福岡市博多区千代 4 丁目 29-24 三原第三ビル 3f
電話 092-631-3750 fax 092-631-3780
会社問い合わせメール：info@swap.co.jp
URL <http://www.swap.co.jp>
- 【設立】 平成 7 年 12 月 12 日
- 【資本金】 1,000 万円
- 【従業員数】 15 人 (2012.)
- 【事業内容】 業種：サービス業
ソフトウェア受託開発
- 【主要取引先】
I T 開発 メーカー
地場公共産業
大学医学系等々

Ⅱ. 環境方針

会社理念から、「あとから来る者(達)のために」が社員のマインドとなり！
持続できる会社であり、持続できる力、持続する社員を育むためにも、社会
環境・地球環境を十分に認識し、会社活動を行う。

1. E C O事業所として、C O 2削減に取り組むことは事業の一貫として考える。
 - ・無理することなく、電気使用量の節減、ゴミ削減を実施する
2. E C O意識(マインド)を地域社会と共に広げる。
 - ・ビル全体でのE C O事業所ビルを目指し共同活動を実施する
3. 社員はE C O意識を常に持ち行動する。
 - ・事業所内だけでなく、客先での業務担当においても E C O 意識を持ち対応する

平成23年6月1日
株式会社 ソフトウェーブプロ
代表取締役 波多江武文



Ⅲ. 環境保全の対象範囲と対象期間

1. 環境保全の対象範囲
 - (1) 事業所と所在地
 - ・本店事業所 福岡市博多区千代4丁目29-24 三原第三ビル3f
 - 注) お客様施設内、作業場所においても自社内と同じに環境保全を行う。
 - (2) 組織 参加従業員(正規、正規外)
 - ・ S w a p 社員および協力会社社員 (Swap 社員と共に作業に従事する方)
2. 環境保全の対象期間
平成23年6月1日～平成24年5月31日の1カ年実績、環境保全レポート提出、
登録、引き続き平成25年5月31日まで1年間実施予定

IV. 環境保全組織

1. 環境保全体制

- 【環境保全責任者：GEM】 : 波多江武文（代表取締役）
- 【環境保全実行責任者：PM】 : 高石博史（部長）・・・管理全般
: 白土幸太郎（部長）・・・お客様施設での管理
- 【環境保全担当者：PP】 : 廃棄物・・・黒瀬敦史、他全員
: 電気・・・牟礼貴司、他全員
: 水・・・黒瀬敦史

2. 環境保全対策会議の設置と役割、メンバー

- (1) 全社的な環境問題の対策の検討、保全の推進
- (2) 環境保全に必要な教育の実施
・ 全社会(月一度)にて必要に応じ環境保全の教育・ディスカッションを行う
- (3) 環境保全実績の評価
・ 四半期毎に実績値を示し、評価および対策を打ち合わせする
- (4) メンバー
・ 社員全員<全社会出席者>および協力会社社員

V. 環境保全の取組項目と目標

1. 環境保全の取組項目

- ①エネルギー ②廃棄物 ③水、④購入用紙（グリーン購入SR活動など）

2. 取組項目の期間中の目標

- (1) エネルギー・・・電気使用量とCO₂排出量の把握と10%削減を目標。
- (2) 廃棄物・・・一般廃棄物の重量の把握と10%の削減を目標。
- (3) 水・・・上水使用量の把握と節減を目標
- (4) コピー用紙等・・・グリーン購入量と比率 up 目標

VI. 環境保全の実績<平成23年6月～平成24年5月>

1. エネルギー使用量と二酸化炭素排出量

	A 前年実績	C 活動期間実績値		C/A 増減率
	22年6～23年5	23年6-24年5	A-C 増減量	%
二酸化炭素排出量	4,596kg	3,552	-1,044	77.3
電気使用量	11,968kw	9,251	-2,717	79.6
燃料使用量	0	0	0	
床面積	83 m ²	83	0	
床面積当たり 二酸化炭素排出量	55.4kg/m ²	42.8	-12.6	77.3

2. 廃棄物発生量、処分量 (k g)

		A 前年実績	C 活動期間実測値		C/A 増減率
		22年6-23年5	23年6-24年5	A-C 増減量	
紙類	発生量	69	68	-1	98.6
	処分量	69	68		
資源ごみ	発生量	15	50	35	333.3
	処分量	15	50		
可燃ごみ	発生量	9	8	-1	88.9
	処分量	9	8		
不燃ごみ	発生量	10	10	0	0
	処分量	10	10		
合計	発生量	103	136	33	134.0
	処分量	103	136		
床面積 当たり	発生量				
	処分量	1.2	1.6	0.4	150.0

3. 水使用料 (m³)

	A 前年実績	C 活動期間実測値		C/A 増減率
	22年6～23年5	23年6-24年5	A-C 増減量	
上水	40.8	51.3	10.5	125.7
床面積当使用量	0.49	0.62	0.13	126.5

Ⅶ. 環境保全活動の内容

1. エネルギーの節減
 - (1) 電気使用量の節減
 - ①室内照明灯の節電
 - ・ 休み時間の消灯、不在者席エリアの消灯
 - ②空調の使用管理
 - ・ 室内温度による使用管理（冷房:28度、暖房:20度）＜空調設備更新＞
 - ③機器の更新（古いPC廃棄）
 - ・ PCモニター更新（液晶モニタ）、電気ポット、扇風機
2. 廃棄物削減とリサイクル率向上
 - (1) 購入事務用紙の削減
 - ・ コピー用紙のグリーン購入および無駄な印刷コピーの禁止
 - (2) 再利用の促進
 - ・ 用紙裏紙利用
 - ・ 資源ゴミ（段ボール、新聞・雑誌の処理）を無駄にしない
3. 水使用量削減・共有利用の節減
 - ・ 共有温水器の無駄使用の管理
 - ・ 共有廊下の節電
 - ・ エレベータ使用の節減
4. CSRの推進
 - (1) グリーン商品購入
 - ・ 購入コピー用紙のグリーン購入、名刺の再生紙使用
 - (2) 情報セキュリティの遵守
 - ・ 個人情報、機密情報の漏えい管理
5. 環境保全会における検討成果
 - 電気使用量の節減、目標を持って実施する。（評価）
 - 情報セキュリティに関しては、毎月状況を確認する。
6. 環境教育
 - 全社会において、環境に関するニュース・話題をディスカッションする。
 - 情報セキュリティの教育は都度必要に応じ実施する。

Ⅷ. 環境保全取組の評価と次年度の取組目標

1. 環境保全取組の評価

- ・電気使用量の節減：前年比－20%が達成できました。
- ・ゴミの削減：ゴミの区分（資源、可燃等）、重量の細かな管理ができませんでした。
- ・水の節水：共有でメータ等が無く、計数的な管理はできません。
- ・CSR：copy用紙はグリーン購入で対応出来ています。

2. 次年度の取組目標

- ・電気使用量の節減：CoolBiz、WarmBizの実施、照明灯等の使用管理、10%削減
- ・ゴミの削減：ゴミ区分・量の管理を行い、資源ゴミへの反映
- ・CSR：ビル全体でECO事業所ビルの検討

Ⅸ. 代表者による総合評価と見通し

1. 総合評価

ECO事業所として、電気使用量節減によるCO₂削減を主眼に取組ました。数年前より、電気使用量節減に取り組んでおり、改めて実施する節電項目は少ないと思っていました。ところが節電をこまめに実施・管理したことで、CO₂削減が前年比－20%を達成する状況でした。思わぬ良い結果で参加者（全社員）にグラフ化（電気料金）し開示することで、意識向上と共に評価できるものになりました。

廃棄物（ゴミ）に関しては、社内で使用するcopy用紙の使用削減になりますが、情報処理の事業所として、用紙は必須なモノです。無駄なゴミを社内に出さない、全社員心掛けて処理しています。まだ、資源ゴミと廃棄ゴミの分別があまり上手く行きませんでした。

とは言え、電気量節減の第一目標は大きく達成することができ、次に繋がるECO事業所と思います。

2. 今後の保全対策への方針

電気使用量の節減継続とゴミの管理（資源、一般等）をしっかりと行い、ゴミ削減対策を検討実施していきます。

ビルのテナントとしては共有部（廊下、エレベータ、給湯室、トイレ）での節電等を管理会社と共に考えて見たいと思います。

グラフで見るエネルギー節減の成果

私たちの活動の結果を見える化しています

22年度と23年度の電気使用量の比較図（23年下期に節減の実績が見えます）

